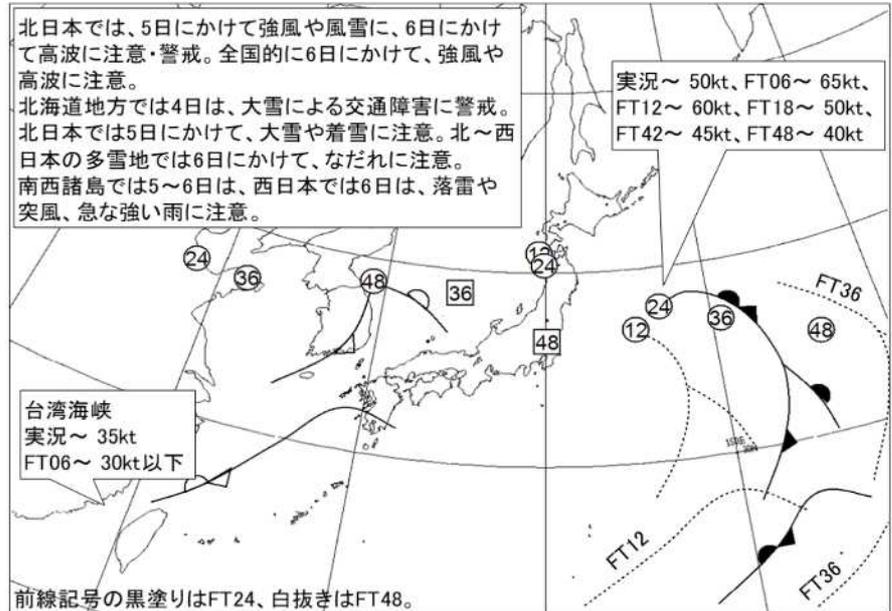


**1. 実況上の着目点**

- ① 500hPa 5520m付近のトラフに対応し、低気圧が前線を伴って急速に発達しながら関東の東を東北東進。北～東日本を中心に強い風が吹き、関東地方では大しけの所がある。
- ② 低気圧が秋田沖を北北東進。
- ③ 850hPa -6°C以下の寒気が北日本と東・西日本日本海側に流れ込み、①の低気圧北側の湿った東よりの風や②の低気圧の影響で、北海道太平洋側では3時間10cm以上の降雪を観測。

**2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点**

- ① 4日は、1項①の上層トラフが深まり、低気圧が急速に発達しながら日本の東を東北東へ進み、関東地方から遠ざかる。5～6日は、低気圧がトラフから変わった寒冷渦の直下に入って日本の東～日本のるか東を東南東へ進む。また、1項②の低気圧は、4日は秋田沖を北上し、5日は東北北部付近に進んで不明瞭となる。これらの低気圧の影響で、やや強い風や強い風が吹き、波がうねりを伴って高くなりしける所がある。うねりの影響は、6日にかけて続くため、予想以上の波の高まりに留意。北日本では、5日にかけて強風や風雪に注意・警戒し、6日にかけて高波に注意・警戒。全国的に6日にかけて、強風や高波に注意。
- ② 2項①の日本の東の低気圧北側から日本海の低気圧に向かう湿った東よりの風の影響で、北日本太平洋側を中心に降雪が続き、大雪となる所がある。北海道地方では4日は、大雪による交通障害に警戒。北日本では、5日にかけて大雪や着雪、なだれに注意。
- ③ 6日は、500hPa 5460m付近のトラフに対応する低気圧が、朝までに日本海西部に発生して前線を伴い発達しながら東北東へ進む。また、5640m付近の強風軸に対応する前線が朝までに顕在化して、東シナ海から西日本太平洋側にのびる。低気圧や前線に向かう下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。南西諸島では5～6日は、西日本では6日は、落雷や突風、急な強い雨に注意。一方、夜までに高気圧が華北付近で顕在化する。低気圧や前線と高気圧の間では気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなりしける所がある。南西諸島では6日は、強風や高波に注意。
- ④ 北～西日本では6日にかけて、850hPaの気温が平年より5°C程度高くなる所がある。多雪地ではなだれに注意。



主要じょう乱解説図

**3. 数値予報資料解釈上の留意点**

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

**4. 防災関連事項【量的予報等】**

- ① 雨量(18時から24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 降雪量(18時から24時間)：北海道40、東北20cm。
- ③ 波浪(明日まで)：北海道・東北・関東・伊豆諸島5、東海・沖縄4、北陸・近畿・奄美3m。

**5. 全般気象情報発表の有無** 発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。